



財務報告書 2020

Financial Report 2020



国立大学法人
旭川医科大学

National University Corporation
Asahikawa Medical University

目次

大学の理念・目標	1
基礎データ	2
重点取組構想	3
■ビジョン	
■戦略	
■実施計画	
ガバナンス体制	5
トピックス（教育研究等の実績）	6
■教育	
■研究	
■診療	
■国際交流	
■地域貢献	
財務データ	10
■令和元年度 決算概要	
■貸借対照表（B / S）	
■損益計算書（P / L）	
■その他の開示書類	
■附属病院セグメント	
■財務指標	

「財務報告書2020」の作成にあたって

国立大学法人は、国からの運営費交付金を重要な財政基盤とするとともに、多様な関係者からの財源に支えられた公共的財産として、多岐にわたる活動それぞれに異なるステークホルダーからの理解と支持を得る必要があります。財務諸表は、その説明責任として本学の運営状況及び財政状態を適切に反映したものでありますが、大学経営、教育・研究・社会貢献活動に係る様々な情報についても分かりやすく公表すべきと考え、この度、本報告書を作成しました。

本学の現状や教育・研究活動等に対する理解を深めていただければ幸いです。

財務諸表等については、本学ホームページに掲載しております。

http://www.asahikawa-med.ac.jp/index.php?f=public+k_zaimu

大学の理念・目標

■教育理念・目標

(教育の理念)

豊かな人間性と幅広い学問的視野を有し、生命の尊厳と高い倫理観を持ち、高度な知識・技術を身につけた医療人及び研究者を育成する。

また、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者を育てる。

さらに、教育、研究、医療活動を通じて国際社会の発展に寄与する医師及び看護職者の養成に努める。

(教育の目標)

旭川医科大学は上記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

- 1 幅広い教養とモラルを養うことにより、豊かな人間性を形成する。
- 2 生命の尊厳と医の倫理をわかまえる能力を養い、病める人を思い遣る心を育てる。
- 3 全人的な医療人能力や高度な専門知識を得るとともに、生涯に亘る学習・研究能力を身につける。
- 4 幅広いコミュニケーション能力を持ち、安全管理・チーム医療を実践する資質を身につける。
- 5 地域・僻地住民の医療や福祉を理解し、それらに十分貢献しうる意欲と能力を獲得する。
- 6 積極的な国際交流や国際貢献のための幅広い視野と能力を習得する。



■病院の基本理念と目標

(基本理念)

大学病院としての使命を認識し、病める人の人権や生命の尊厳を重視した先進医療を行うとともに、次代を担い、地域医療に寄与し、及び国際的にも活躍できる医療人を育成する。

(目標)

- 1 人権や尊厳を思い遣る患者中心の医療を行う。
- 2 安心・安全を心がける中で、高度な医療を提供する。
- 3 予防・健康医学に取り組み、地域医療や福祉の向上に貢献する。
- 4 倫理観にあふれ国際感覚に富んだ医療人を育成する。
- 5 未来の医療を創造し、その成果を国内外に発信する。

基礎データ

学生

学部	
医学科	705名
看護学科	244名
大学院	
博士課程（医学）	76名
修士課程（看護学）	46名

（※令和2年5月1日時点）

教職員

役員（非常勤含む）	7名
教員	350名
職員	1,116名

（※令和2年5月1日時点）

国家試験合格者

医師	141名
保健師	12名
助産師	4名
看護師	58名

（※令和2年合格者）

社会連携

公開講座開催数	19回
派遣講座実施数	131回

（※令和元年度）

病院（体制）

病床	602床
診療科等	39科
中央診療施設等	34施設

（※令和2年5月1日時点）

病院（実績）

外来患者延数	390,086名
入院患者延数	187,155名
新規登録患者数	8,616名
救急患者数	5,325名
手術件数	14,030件

（※令和元年度）
（※手術件数は外来実績を含む）

蔵書

図書	
一般教育	42,727冊
専門教育	126,310冊
雑誌（電子ジャーナル含む）	8,006冊
視聴覚資料	3,350点

（※令和元年度）

土地・建物

土地	262,853㎡
建築延面積	139,346㎡

（※令和2年5月1日時点）



重点取組構想

■ビジョン

地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する人材育成を積極的に推進し、高齢化や地域社会に対応した新たな医療技術の開発や医療水準の向上を図る。

■戦略

戦略 1

地域に根ざした医療人育成機能の強化

北海道内の地域医療を担う医師の確保及び生涯にわたるキャリア形成を一体的に推進し、広大な北海道の医師偏在解消に貢献するため、卒前の学生教育・臨床実習、卒後の臨床研修、さらには専攻医（専門医）・高度医療職業人の養成にいたる一貫性のある医師養成システムを構築し、今後の医学教育、医師養成と医療、医学研究と先進医療を担う人材育成機能を強化する。

戦略 2

超高齢社会や地域社会の課題に対応した研究および遠隔医療システム等を活用した研究の推進、新たな医療技術の開発や医療水準の向上

北海道の医療支援の実績から発展した遠隔医療の研究、高齢社会に対応した脳機能医工学研究の推進など、地域特性に対応した様々な研究を始めとする実績を活かした先端的で特色ある研究を推進するとともに、橋渡し研究拠点として基礎研究成果の臨床への応用の推進による研究成果の実用化を図り、イノベーション創出へ向けた取組を展開する。

戦略 3

社会貢献機能の強化、国・地方公共団体・企業等と連携した地域貢献のための人材育成及び連携活動等の推進

「医療介護総合確保推進法」の成立により、地域包括ケアシステムの構築が急務となった。同システムの構築には、医療と介護を中心とした多職種の関わりと多くの医療機関、介護施設、老人クラブや自治会などの地域組織の連携が必要となる。

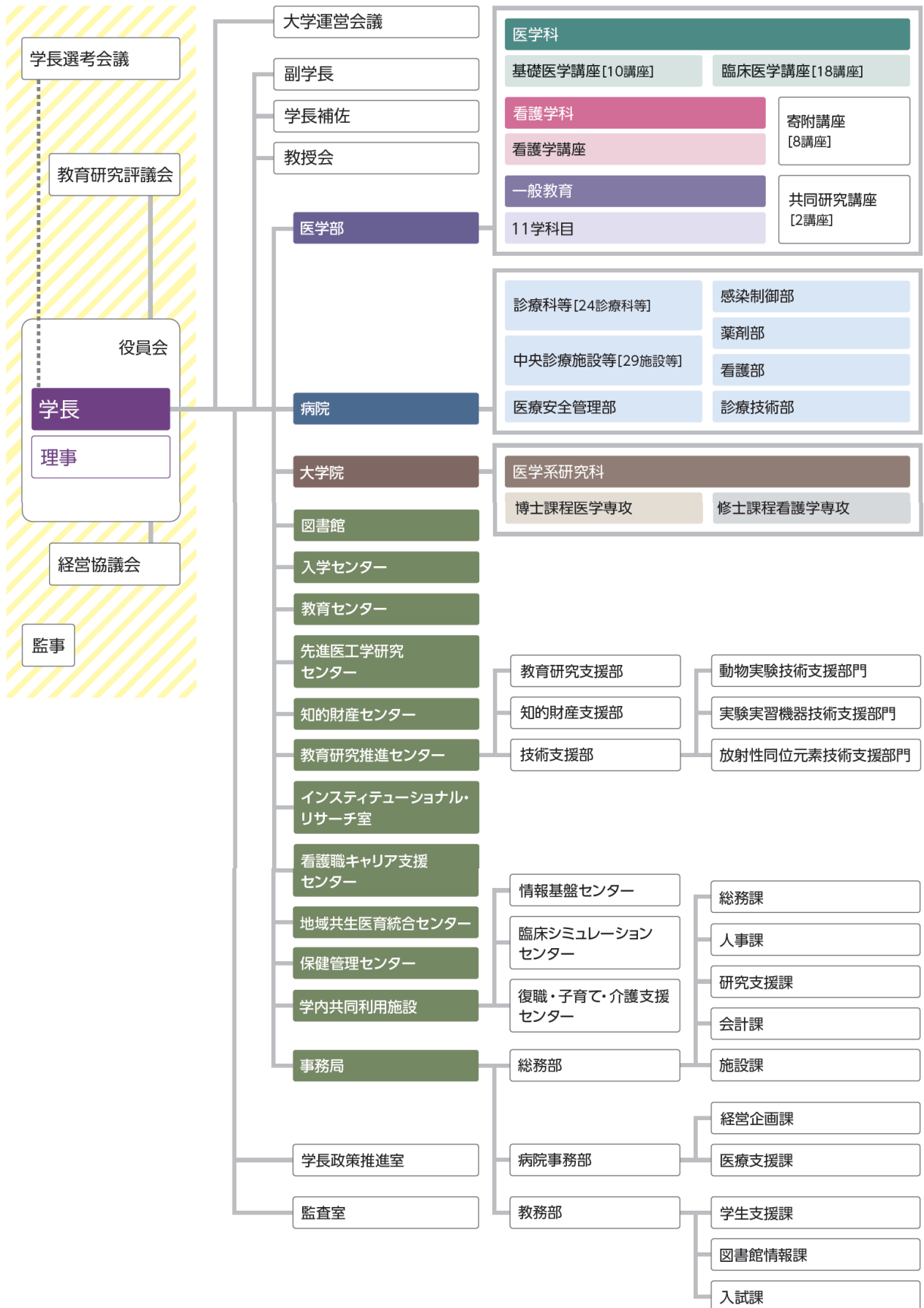
地域包括ケアシステムの構築にあたっては、都市と農村部、高齢化のスピードなど、地域によって特性が異なるため、その地域の自主性に合わせたシステム構築に向けて、看護職は高度な知識と対人能力を有する必要がある。そこで、教育カリキュラムを一部変更し、在宅医療看護や高齢者看護に造詣の深い地域包括ケアを担う看護職のキャリアアップに向けた人材教育モデルの構築を目指す。「人生100年時代」が目前に迫る中、地域包括ケアシステムの構築と安定稼働は喫緊の課題であるため、本取組のような医療人育成とICT利活用プログラムは大いに貢献することとなる。

併せて、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機として、スポーツを通じた健康づくりの意識を醸成するため、大学コンソーシアムの異業種プラットフォームを介した産学官の連携により地域の健康の保持増進を中心とした課題解決のための活動を実施し、スポーツ医科学の研究成果の活用推進及び地域のスポーツツーリズムを促進する。

■ 実施計画

戦略概要	平成29年度	平成30年度	平成31（令和1）年度	令和2年度	令和3年度
【戦略1】地域に根ざした医療人育成機能の強化					
プロジェクト 新専門医制度下における医療人育成 Topics!					
(1) 専門医育成・管理センターの設置・運営、他センターとの連携	専門医育成・管理センターの設置	専門医育成・管理センターの運営（シームレスな教育体制の構築、サポート体制の充実、学修管理の支援） 学生・初期臨床研修医・専攻医への広報・情報提供（ホームページ、プログラム冊子）			
(2) 医師偏在の解消に貢献する取り組み、地域医療セミナー・研修会	名寄市・名寄市立総合病院等との連携（多職種セミナーの開催・地域医療を学ぶ研修会）			地域医療セミナー・研修会、実践に向けた高度な医療技術の習得	
(3) ICTを活用した地域基幹病院との連携、教育コンテンツの提供	地域医療関係者・住民への講演			ICTを活用した地域との連携（情報の共有） 地域に勤務する専攻医を対象とした教育用動画の配信	
【戦略2】超高齢社会や地域社会の課題に対応した研究および遠隔医療システム等を活用した研究の推進、新たな医療技術の開発や医療水準の向上					
プロジェクト 抗加齢医学プロジェクト					
(1) 診療情報の収集・分析	抗加齢医学研究ワーキングの設立（定例会議の実施） 認知機能⇔各種疾病 相関項目の選定	データ収集（'2019～学内）、（'2020～地域医療機関、地方自治体） せん妄に関するデータ分析 国民健康保険データ分析			
(2) 学術研究支援体制の構築	抗加齢に特化した学内多分野研究の実施			構築したデータベースを活用した学会発表・学術論文公表のサポート	
(3) 疾病予測シミュレーション技術の開発	疾病予測へ向けた現状分析 認知・運動機能検出へ向けた現状分析	医療情報の分析による疾病シミュレーション予測モデルの構築（予測シミュレーション技術の開発）			
(4) 分析結果報告とフィードバック	医療従事者用診療マニュアルの策定（'2017～）、住民用疾病マニュアルの策定（'2018～） 講演会・派遣講座の実施				
【戦略3】社会貢献機能の強化、国・地方公共団体・企業等と連携した地域貢献のための人材育成及び連携活動等の推進					
プロジェクト スポーツ医科学研究拠点					
(1) 健康増進・介護予防などのヘルスケア支援	芦別市との連携に関する協定	市民講演会	市民講演会	市民講演会	市民講演会
(2) 動作解析装置等によるスポーツ医科学研究の推進	スポーツ医科学研究設備の整備（測定機器の充実）		スポーツ医科学研究の推進（他機関との連携） 研究結果のフィードバック（社会への還元）		
(3) オリンピック・パラリンピックに向けた合宿誘致、競技力向上支援、医療ツーリズム等の推進	スポーツ医科学研究委員会を中心とした活動体制構築（各種大会・講習会へ職員への派遣、有資格者の養成）		専門知識・資格を有する職員によるスポーツ活動支援の充実 平昌（'2018）冬季オリ・パラ開催に向けた医学的協力 北京（'2022）冬季オリ・パラ開催に向けた医学的協力 東京（'2020）夏季オリ・パラ開催に向けた医学的協力 パリ（'2024）夏季オリ・パラ開催に向けた医学的協力		
プロジェクト 地域包括ケア支援システムの構築 Topics!					
(1) 看護職キャリア支援センターの設置・運営（4部門の活動）	看護職キャリア支援センター及び運営委員会の設置		教育プログラム開発部門の取組み 看護実習指導者研修会、外国人看護師研修プログラム キャリア支援部門の取組み 「相談窓口」の設置・運用、セミナーの企画・実施 人事交流部門の取組み 大学看護教員⇔病院看護師人事交流 地域看護職支援部門の取組み 地域看護職への支援、北海道内訪問看護ステーションのニーズ調査・分析 ホームページによる広報・情報提供		
(2) 地域包括ケアを担う人材育成のための「学びのプロセス」の構築	NPO法人グラウンドワーク西神楽とモデル事業開始・施設視察 地域包括ケアを担う看護職を育成するための新カリキュラムの検討・作成 西神楽地域での実習		新カリキュラムの開始 緑が丘地域での実習 西神楽地域での実習 神楽地域での実習 緑が丘・神楽・西神楽地域での地域包括ケア実習開始		
(3) ICTを活用した地域保健医療機関・地方公共団体・地域住民・企業との連携	北海道メディカルミュージアムの実施 HMMに研修等のコンテンツ追加				
(4) 地域包括ケア、キャリア等に関する講演会・セミナー	講演会「地域まちづくり」 講演会「老人看護専門看護師の役割」		講演会「遠隔看護支援システムの有用性」		キャリアデザインセミナー 学生と看護職セミナー

ガバナンス体制



トピックス（教育研究等の実績）

教育

■ 医学教育分野別評価基準適合

旭川医科大学医学部医学科は、医学教育の質保証の一環として、令和元年7月に一般社団法人日本医学教育評価機構（以下、「JACME」という）による医学教育分野別評価を受審しました。

その結果、世界医学教育連盟（WFME）の国際基準に基づく、「医学教育分野別評価基準日本版Ver2.3」に適合していると認定されました。

なお、今回の認定期間は、令和2年2月1日から令和9年1月31日までの7年間です。

JACMEからの評価報告書、本学の自己点検評価報告書等は、本学ホームページに掲載しております。



[掲載ページURL]

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/kikaku/tenken.html#03n>

■ 入学者選抜試験 学外面接員制度導入

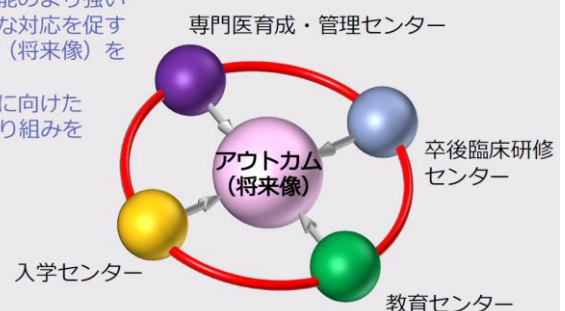
地域医療への貢献、国際医療人の養成、高度先進医療の担い手としての専門医や基礎医学研究者の育成など、本学の社会的役割が飛躍的に拡大していることから、入学センター、教育センター、卒後臨床研修センター、専門医育成・管理センターの連携をさらに強化し、各センターの機能を有機的に統合することを目的とした医育統合センター（現・「地域共生医育統合センター」令和2年5月改称）を平成31年4月に設置しました。

当センターを中心に、地域に開かれた大学への一層の改革を实践する一環として、地域社会の要請に応えた入学者選抜を実施するために、学外面接員制度を導入しました。

令和元年11月の医学科推薦入試において、当該学外面接員を導入した選抜試験を初めて実施しました。

医育統合センターの役割

- 各部門・機能のより強い連結と柔軟な対応を促す
- アウトカム（将来像）を共有する
- アウトカムに向けた各部門の取り組みを支援する



研究

■動物実験施設 改修を終え全面オープン……………

今春に動物実験施設のKurodake（K棟）の改修が終了し、昨春に新設されたAsahidake（A棟）と合わせて、全学SPF化（SpecificPathogen Free：特定病原微生物非感染）の要となるマウス・ラットの飼養保管・実験エリアが誕生しました。疾患モデルマウスなどをクリーンな環境下で安定して飼育すると同時に、免疫不全動物を用いた実験や病原微生物を使用した感染実験、遺伝子改変動物の作製のための生殖工学を行うなど、様々な動物実験が可能となり、動物飼養保管管理を集中化することで、より安全で適正な環境が整いました。さらに、中大動物の飼養保管・実験エリアの整備拡充も引き続き行う予定です。

新型コロナウイルス感染症の影響で利用開始が6月にずれ込み、かつ制限下でオープンとなりましたが、今後、より利便性を高めるように教職員一同積極的に取り組んでおります。



診療

■緊急を要する血管疾患に対するクラウド型遠隔医療の確立……………

本学の外科学講座（血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野）東信良教授は、令和元年度北海道科学技術賞を受賞しました。

「急性大動脈疾患は、一刻も早い治療（外科手術あるいは血管内治療）が必須の救急疾患である。迅速に手術を開始できれば高い救命率が望めるが、広大な北海道で治療できる専門施設は非常に限られており、いかに手術可能な施設にアクセスできるかが問われる。

氏は、クラウド型遠隔医療に着目した。遠方の中核病院で撮影したCT等画像を圧縮し、クラウドに送信、心臓血管外科専門医がクラウド上の画像をみて手術適応や術式を判断、患者病院到着後直ちに手術を開始するシステムを大動脈救急疾患に応用し、その臨床応用を確立した。さらに、この技術を他の血管疾患（急性及び慢性下肢動脈閉塞、静脈血栓塞栓症）や小児外科領域などの専門医の非常に少ない外科領域に応用し、適応を拡大した。」

（「功績の概要」から抜粋。）

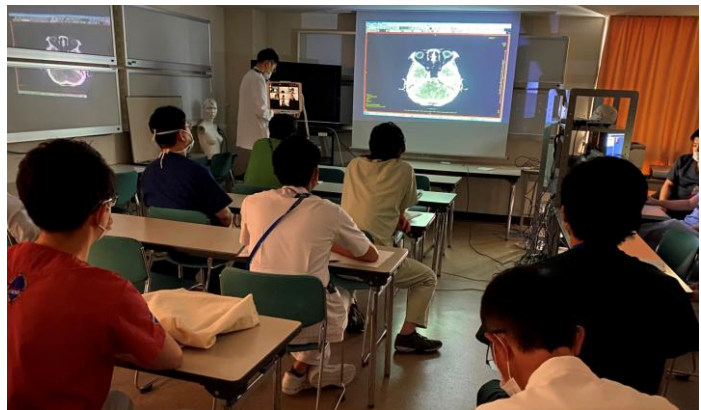


■脳卒中センター 新設

様々な病態に対応し診療が必要な救急医療の一つに、治療介入までの数分でその患者さんの予後を左右する「脳梗塞」を含む脳卒中分野があります。

当院は国の「脳卒中・循環器病対策基本法」制定に伴い、地域の中でこのことに確実に対応していくため、また、短時間に複数人数で取り組む事、24時間365日安定した体制を維持する必要性などから、令和元年12月「脳卒中センター」を設置しました。

中でも、「脳梗塞」に対しては、大規模研究でその有効性が認められ、広く普及するようになった「血栓回収療法」を早くから取り入れており、これまでの15年間に渡る脳卒中チームの活動を更に高め、脳神経外科、脳神経内科、救急科、リハビリテーション科、循環器内科等が一丸となって取り組み、大学病院として質の高い医療を提供してまいります。



■ジャパン インターナショナル ホスピタルズ (JIH) に推奨

「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ (JIH)」は、一般社団法人Medical Excellence JAPAN (MEJ) が、日本の医療機関に渡航受診者の受入れを促進するため、渡航受診者の受入れに意欲と取組みのある病院を評価し、所定の基準を満たす病院を「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」として推奨し、政府と協調して海外へ情報発信するものです。

当院は、病院国際化の一環として体制を整備し、令和元年9月に推奨されました。

国際医療対応として、外国人患者対応のために、総合案内に通訳者1名を配置、令和2年3月にはオペレーション不要の通訳端末を導入し、外国の方にも安心できる医療を提供できるよう体制を整えました。



国際交流

■ 中国の大連大学附属中山医院からの研修受入れ.....

令和元年9月2日～11月13日の約2ヶ月半、中国の大連大学附属中山医院から中国人医師1名と看護師1名の研修を受け入れ、日本の先進医療、チーム医療、患者サービスを伝えました。

研修中は本学病院の医療通訳が言葉の橋渡しとなったことで、お互いの情報交換がスムーズに行われ、研修者からは日本の先進医療、優れた医療システム、高い学術研究に触れ、視野が広がり専門スキルを学ぶことができたとの報告を受けました。また、我々も海外の医療・看護事情を聴く機会がなかったため、非常に興味深い時間となりました。



地域貢献

■ メディカルキャンプセミナー.....

北海道教育委員会と共催で、令和元年8月6日～9日の4日間に渡りメディカルキャンプセミナーを開催しました。参加者は42名で、講演会及びワールドカフェ形式のワークショップを実施し、参加者は、地域医療の現状や課題を再認識するとともに、将来、医師としてどのようなキャリアを描くべきかについて考えを深めることができました。

■ ブラック・ジャックセミナー.....

中学生が外科医の仕事を模擬体験する「ブラック・ジャックセミナー」を令和元年11月に開催しました。市内から41名の参加があり、医療技術に直に触れることで外科医に関心を持ってもらうことができました。外科医の確保が課題になっている昨今、将来の外科医不足解消に向け、本セミナーを開催する意義は非常に大きいと感じました。

財務データ

令和元年度 決算概要

※端数処理により、合計が一致しない場合がある。【単位：百万円】

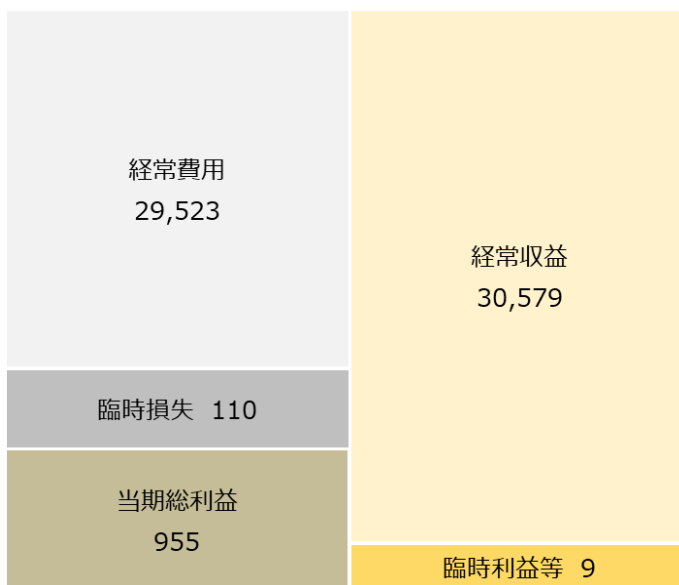
■ 貸借対照表（B/S）の概要

期末時（令和2年3月31日）における資金の運用形態及び調達源泉を示し、本学の財政状態を明らかにしています。



■ 損益計算書（P/L）の概要

事業年度内（平成31年4月1日～令和2年3月31日）における費用と、それに対応する財源（収益）とを示し、本学の運営状況を明らかにしています。



■ 利益の処分（損失の処理）に関する書類

事業年度内に発生した本学の損益について、その処分方法を明らかにしています。



※当期総利益のうち、国立大学法人会計固有の処理により発生する現金の裏付けのない帳簿上の利益を積立金に計上。

貸借対照表 (B/S)

■ 推移

科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(対前年)
固定資産 [a]	19,586	19,171	19,316	19,623	(+307)
土地	4,659	4,659	4,659	4,659	(-)
建物	8,999	8,603	8,990	9,140	(+149)
工具器具及び備品	3,636	3,413	3,382	3,554	(+172)
図書その他	2,018	2,240	2,020	2,030	(+10)
無形固定資産	21	18	13	11	(△2)
関係会社株式	0	0	43	36	(△8)
長期貸付金	254	238	209	194	(△15)
流動資産 [b]	6,145	7,156	5,846	6,239	(+393)
たな卸資産	227	246	259	296	(+37)
未収入金	3,599	3,934	3,923	3,801	(△122)
現金・預金	2,259	2,936	1,602	2,096	(+494)
その他流動資産	59	41	62	46	(△16)
資産合計 [a+b]	25,731	26,328	25,162	25,862	(+700)
負債 [c]	20,353	21,923	19,823	19,177	(△646)
資産見返負債	3,041	3,278	3,397	3,119	(△278)
借入金	9,652	9,052	8,714	8,303	(△411)
リース債務	1,966	1,279	598	631	(+33)
運営費交付金債務	79	95	124	25	(△99)
寄附金債務	1,292	1,335	1,107	1,040	(△67)
未払金	2,884	3,336	4,234	4,243	(+9)
引当金	740	2,778	782	854	(+73)
その他負債	699	772	868	961	(+93)
純資産 [d]	5,378	4,404	5,339	6,685	(+1,346)
資本金	1,028	1,028	1,028	1,028	(-)
資本剰余金	1,255	1,659	2,185	2,576	(+391)
利益剰余金	3,095	1,718	2,126	3,081	(+955)
負債・純資産合計 [c+d]	25,731	26,328	25,162	25,862	(+700)

■ 主な増減要因 (対前年度)

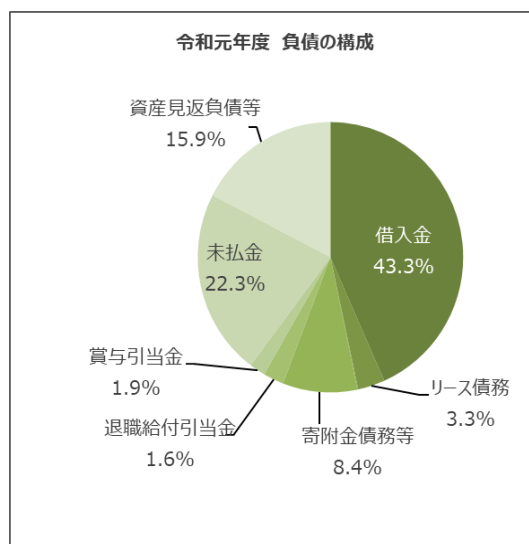
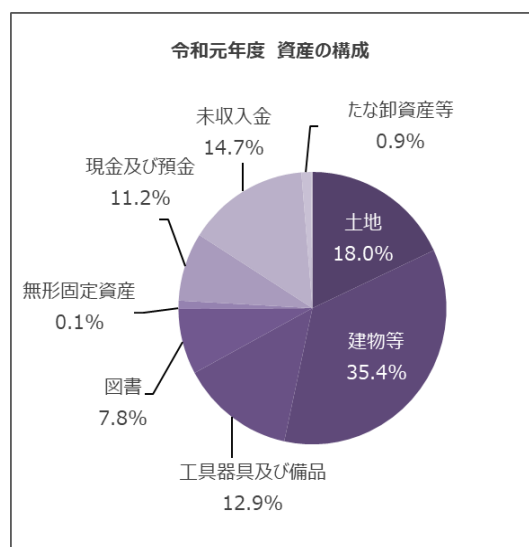
【単位：億円】

【資産の主な増減要因】

①建物等	+ 1.5億円
・ 動物実験施設改修による増	+ 6.1億円
・ 計上変更による増 (アメニティ施設)	+ 2.5億円
・ 建物等の減価償却による減	- 7.1億円
②工具器具及び備品	+ 1.7億円
・ 医療用器械備品購入による増	+ 5.6億円
・ その他器械備品購入による増	+ 1.8億円
・ 備品の減価償却による減	- 5.7億円
③現金及び預金	+ 5.0億円
・ 長期借入金の翌期払いの差増	+ 3.2億円
・ 退職金の翌期払いの差増	+ 2.4億円
・ その他業務費及び人件費に伴う減	- 0.6億円

【負債の主な増減要因】

④借入金	- 4.1億円
・ 返済による減	- 4.1億円
⑤リース債務	+ 0.3億円
【長期リース債務 (固定負債)】	+ 4.2億円
・ 計上変更による増 (アメニティ施設)	+ 2.2億円
・ リース開始に伴う増 (daVinci)	+ 2.6億円
・ その他のリース資産に係る債務の増減	- 0.6億円
【一年以内返済リース債務 (流動負債)】	- 3.9億円
・ リース終了に伴う減 (病院情報システム)	- 3.0億円
・ その他のリース資産に係る債務の増減	- 0.9億円
⑥資産見返負債等	- 2.8億円
・ 建設仮勘定見返施設費の減	- 2.2億円
・ その他の資産見返負債の増減	- 0.6億円



損益計算書 (P/L)

■ 推移

損益計算書 (要約)						【単位：百万円】					
科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(対前年)	科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(対前年)
経常費用 [B]	26,307	27,628	28,647	29,523	(+877)	経常収益 [A]	27,933	28,745	29,355	30,579	(+1,224)
教育・研究経費	1,633	1,569	1,681	1,557	(△124)	運営費交付金収益	5,105	5,356	4,883	5,339	(+456)
診療経費	12,883	13,460	13,980	14,383	(+403)	学生納付金収益	646	637	648	630	(△18)
人件費	11,046	11,860	12,095	12,734	(+639)	附属病院収益	20,572	21,234	22,089	22,866	(+777)
一般管理費・雑損	296	335	371	342	(△29)	雑益その他	521	468	484	583	(+99)
財務費用	146	114	85	72	(△13)	資産見返戻入益	299	274	274	240	(△34)
受託研究費・事業費	303	289	433	435	(+2)	外部資金収益	789	775	976	921	(△55)
						経常利益 [A-B]	1,626	1,117	708	1,055	(+347)
臨時損失 [D]	103	2,044	89	110	(+21)	臨時利益 [C]	1	3	0	9	(+9)
						前中期目標期間 繰越積立金取崩額 [E]	78	101	108	0	(△108)
						目的積立金取崩額 [F]	0	14	12	0	(△12)
						当期総利益 [A-B+C-D+E+F]	1,602	△ 810	740	955	(+215)

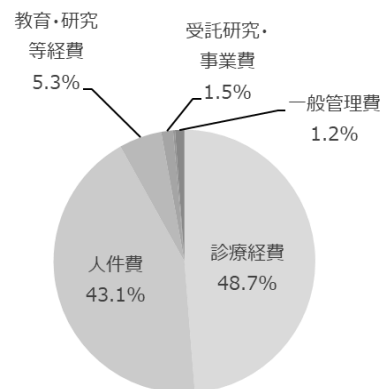
■ 主な増減要因 (対前年度)

【単位：億円】

【費用の主な増減要因】

③診療経費	+ 4.0億円
・ 病院収益の増に伴う医薬品費・診療材料費の増	+ 4.2億円
・ 委託費単価の増	+ 0.7億円
・ 医療機器の減価償却費等の設備関係費の減	- 1.9億円
・ その他 消耗品等経費の増	+ 1.0億円
④人件費	+ 6.3億円
・ 医療従事者の増員に伴う増	+ 2.0億円
・ 退職手当の増	+ 4.0億円
・ 保険料率増に伴う法定福利費の増	+ 0.3億円
⑤教育・研究等経費	- 1.2億円
・ 寄附金による執行減	- 1.2億円

令和元年度 経常費用の構成



【収益の主な増減要因】

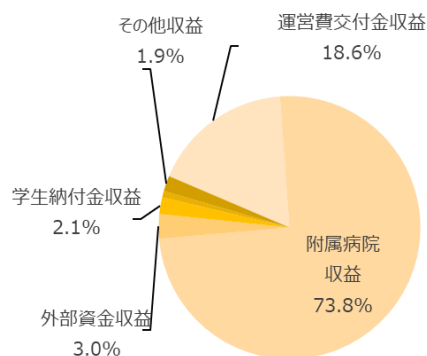
①運営費交付金収益	+ 4.6億円
・ 退職手当分の交付増 他	+ 7.6億円
・ 附属病院機能強化分の交付減 他	- 3.0億円

②附属病院収益

入院関連	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率
診療報酬請求額	148.4億円	152.9億円	157.2億円	160.0億円	1.8%
診療単価	77,827円	80,266円	82,916円	85,521円	3.1%
病床稼働率	86.8%	86.7%	86.3%	84.9%	△ 1.6%
平均在院日数	12.4日	12.5日	12.1日	11.8日	△ 2.5%
手術件数	7,978件	7,923件	7,975件	7,992件	0.2%

外来関連	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率
診療報酬請求額	57.7億円	60.1億円	64.7億円	69.0億円	6.1%
診療単価	15,355円	15,815円	16,639円	17,602円	5.7%
一日あたりの患者数	1,541人	1,557人	1,594人	1,625人	1.9%
新患率	3.9%	4.0%	3.8%	3.7%	△ 2.6%
紹介率	85.3%	89.8%	83.8%	87.9%	4.9%

令和元年度 経常収益の構成



その他の開示書類

■ キャッシュ・フロー計算書

一会計期間のキャッシュ・フローの状況を一定の活動区分別に表示しています。

【単位：百万円】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(対前年)
I 業務活動による					
キャッシュ・フロー	3,892	3,335	1,475	2,383	(908)
II 投資活動による					
キャッシュ・フロー	△ 467	△ 1,236	△ 1,684	△ 865	(819)
III 財務活動による					
キャッシュ・フロー	△ 2,134	△ 1,422	△ 1,125	△ 1,025	(100)
IV 資金に係る換算差額	-	-	-	-	
V 資金増加額（又は減少額） (I + II + III + IV)	1,291	677	△ 1,334	494	(1,827)
VI 資金期首残高	969	2,259	2,936	1,602	(△1,334)
VII 資金期末残高 (V + VI)	2,259	2,936	1,602	2,096	(494)

■ 利益の処分（損失の処理）に関する書類

損益計算の結果、当期に発生した利益の処分（損失の処理）について明らかにしたものです。

【単位：百万円】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(対前年)
I 当期末処分利益（損失）	1,602	△ 810	740	955	(215)
当期総利益	(1,602)	(0)	(740)	(955)	
当期総損失	(0)	(810)	(0)	(0)	
II 利益処分（損失処理）額	1,602	810	740	955	(215)
目的積立金	(1,129)	(810)	(0)	(0)	
積立金	(473)	(0)	(740)	(955)	

■ 国立大学法人等業務実施コスト計算書

大学運営にかかる国民負担額を明らかにしたものであり、損益計算書の費用から自己収入を控除し、損益計算書に計上されないコストや機会費用を加味して算出します。

【単位：百万円】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(対前年)
I 業務費用	4,060	6,685	4,651	4,829	(178)
(1) 損益計算書上の費用	(26,410)	(29,672)	(28,735)	(29,633)	(898)
(2) (控除) 自己収入等	(△22,350)	(△22,987)	(△24,083)	(△24,804)	(△720)
II 損益外減価償却相当額	292	284	299	318	(19)
III 損益外減損損失相当額	0	0	0	0	(0)
IV 損益外有価証券損益相当額					
～ VI 損益外利息費用相当額	-	-	-	-	
VII 損益外所売却差額相当額	0	2	0	0	(△0)
VIII 引当外賞与増加見積額	△ 223	4	28	△ 5	(△33)
IX 引当外退職給付増加見積額	71	△ 196	136	△ 283	(△419)
X 機会費用	1	1	0	0	(0)
XI (控除) 国庫納付額					(0)
XII 国立大学法人等業務実施コスト	4,202	6,779	5,115	4,859	(△255)

附属病院セグメント

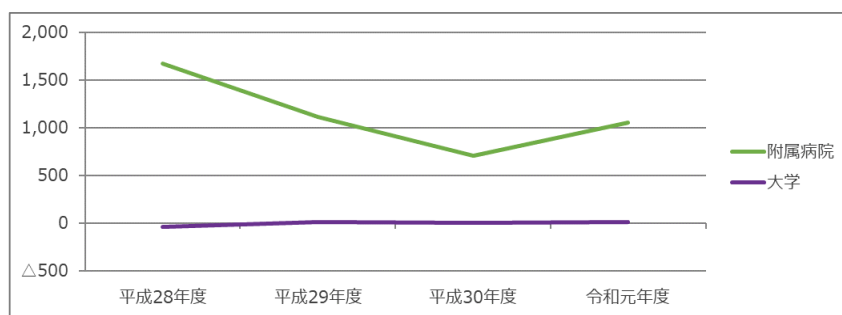
国立大学法人の多岐にわたる業務内容を適切に開示し、説明責任を果たす観点から、本学では附属病院に係るセグメントを設定し、より詳細な財務情報を公開しています。

■ 業務損益

【単位：百万円】

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
附属病院	1,667	1,109	704	1,048
大学	△42	8	4	8
法人共通	-	-	-	-
合計	1,626	1,117	708	1,055

※端数処理により、合計が一致しない場合がある。

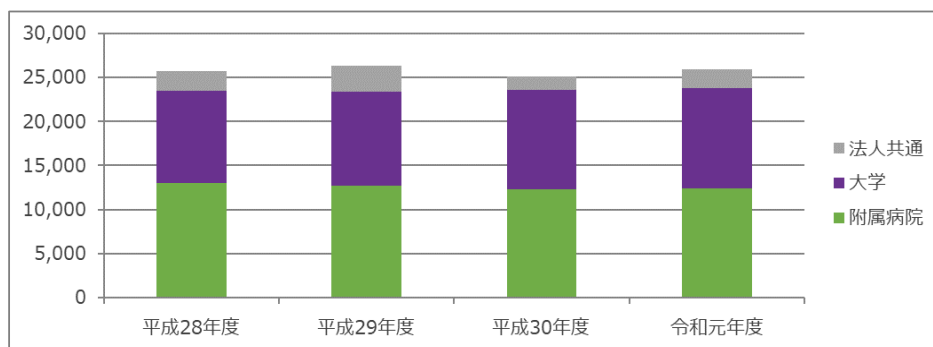


■ 帰属資産

【単位：百万円】

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
附属病院	12,980	12,712	12,296	12,405
大学	10,500	10,686	11,271	11,379
法人共通	2,251	2,930	1,594	2,090
合計	25,731	26,328	25,162	25,874

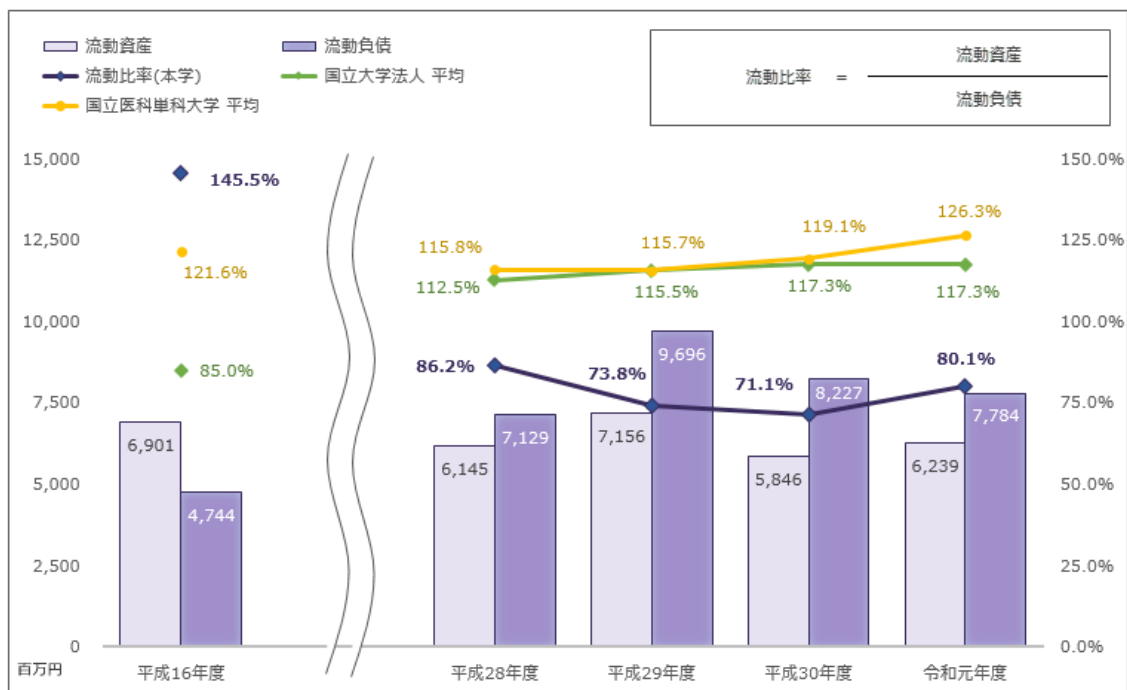
※端数処理により、合計が一致しない場合がある。



財務指標

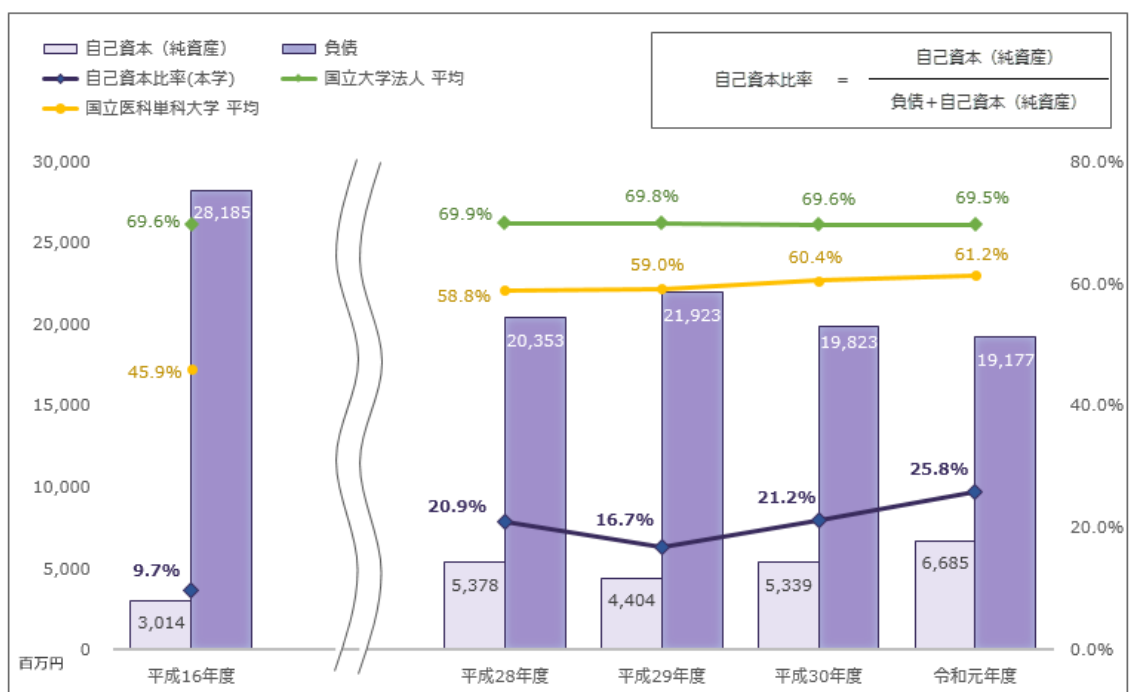
■流動比率

【安全性指標】1年以内に償還又は支払うべき債務（流動負債）に対して、1年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度確保されているかを示すもので、上がった方が良いとされる指標。



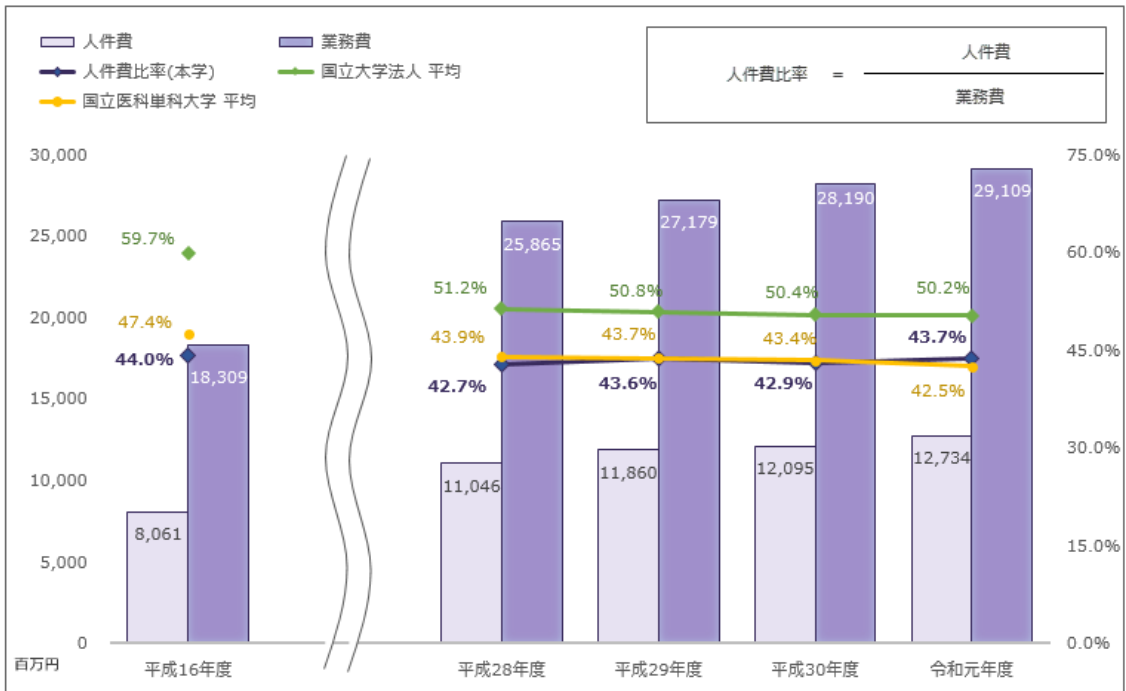
■自己資本比率

【健全性指標】総資産に対する自己資本の比率であり、当該国立大学法人の健全性を判断するもので、上がった方が良いとされる指標。



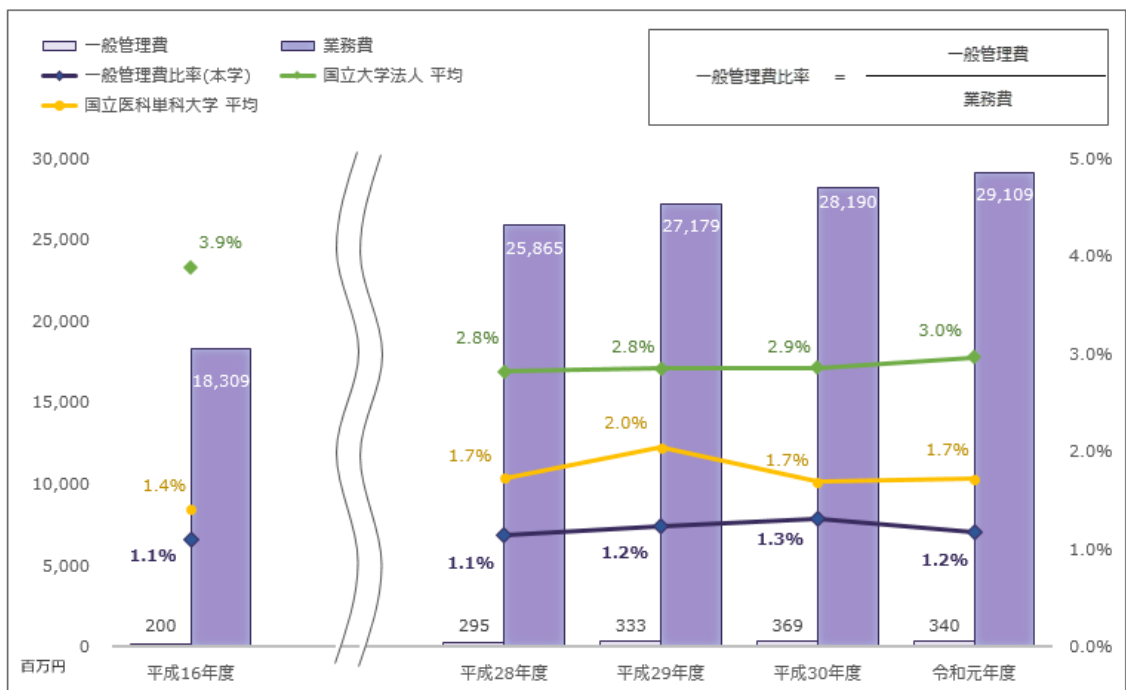
■ 人件費比率

[収益性指標] 業務費に対する人件費の比率で、下がった方が良いとされる指標。



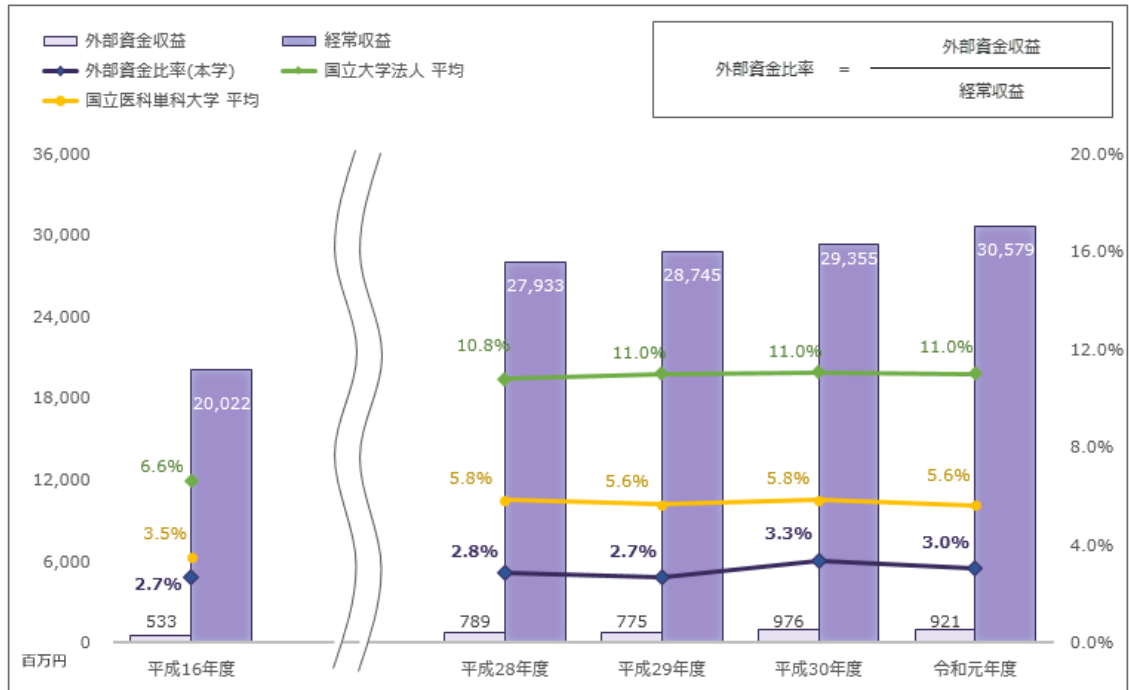
■ 一般管理費比率

[効率性指標] 業務費に対する一般管理費の比率であり、当該国立大学法人が管理運営を行う際の効率性及び管理運営等に要する財源が確保されているかを判断するもので、下がった方が良いとされる指標。



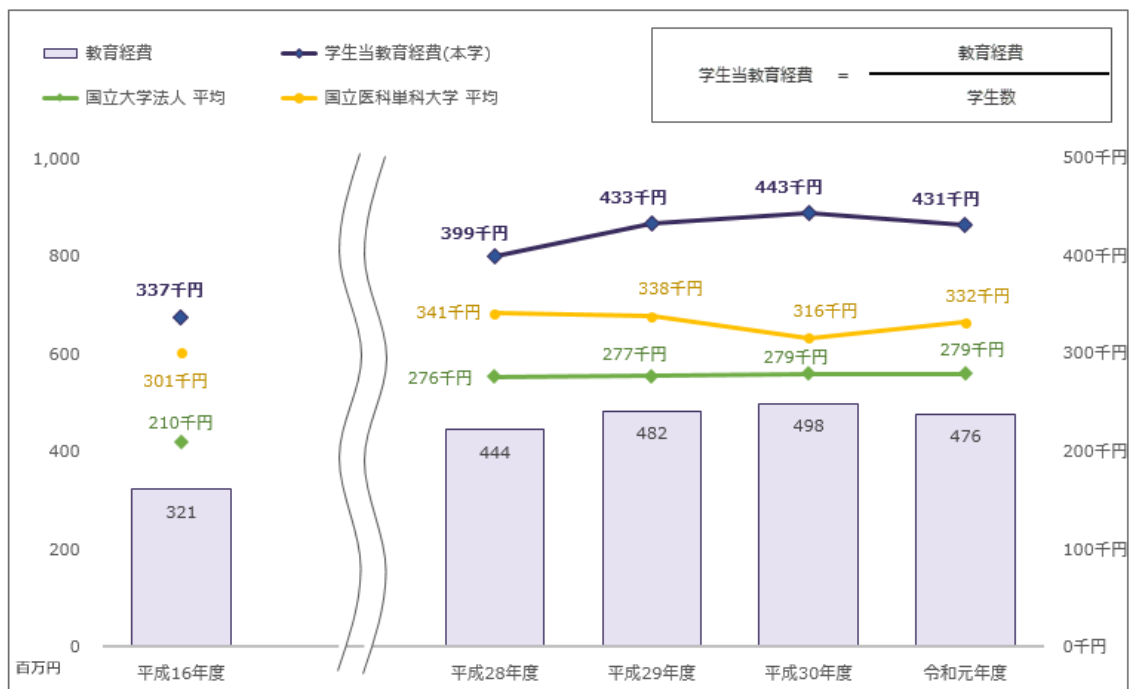
■外部資金比率

[活動性指標] 経常収益に対する外部から獲得した資金の比率であり、当該国立大学法人の外部資金等による活動の状況及び収益性を判断するもので、上がった方が良いとされる指標。



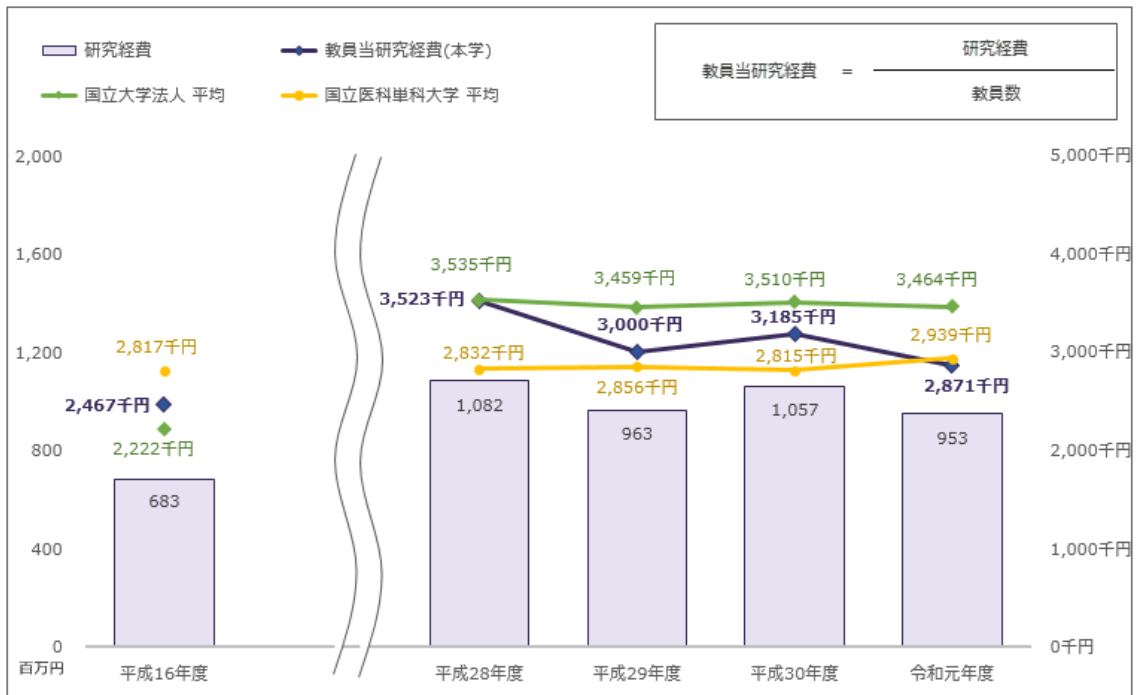
■学生当教育経費

[活動性指標] 学生一人当たりの教育経費を示す指標であり、数値が高い方が良いとされる指標。



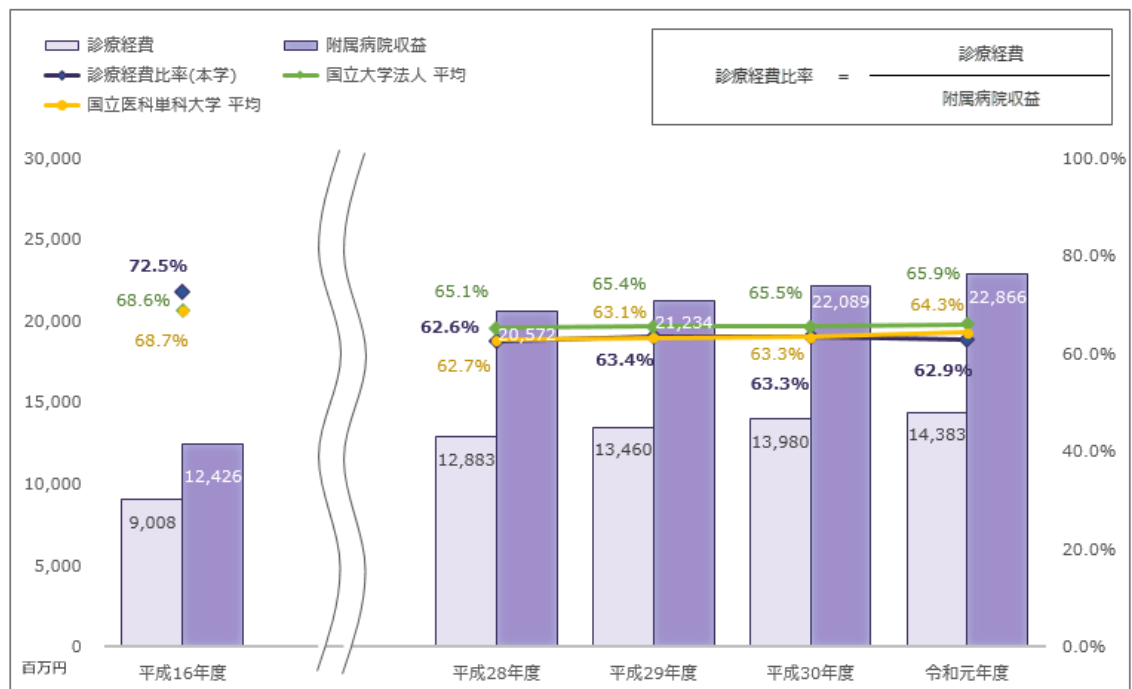
■ 教員当研究経費比率

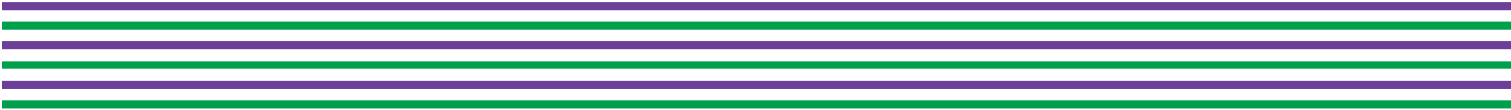
[活動性指標] 教員一人当たりの研究経費を示す指標であり、数値が高い方が良いとされる指標。



■ 診療経費比率

[収益性指標] 附属病院収益に対する診療経費の比率であり、当該国立大学附属病院の収益性を判断するもので、下がった方が良いとされる指標。





旭川医科大学基金へのご支援のお願い

旭川医科大学基金への更なるご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

お申し込み方法：①クレジットカード、コンビニエンスストアでの払込

②郵便振替払込

③大学窓口への直接払込

※詳しくは下記より旭川医科大学基金ホームページをご参照ください。

旭川医科大学基金

検索



[編集]

旭川医科大学総務部会計課

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

Tel 0166-65-2111

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>